

～かなみっ子のすこやかな成長、質の高い乳幼児教育と保育を目指して～



つながる



函南町幼児教育センターだより 13号

令和7年9月発行

連絡先 学校教育課内
幼児教育センター 979-8121

第3回函南町接続研究推進会議

第3回の函南町接続研究推進会議では、前回に引き続き寶來生志子先生（東海大学准教授）を講師にお招きして開催しました。寶來先生の講演では、①午前中の話し合いの視点について、②午後の年間指導計画を架け橋期の目で見直すための方法について説明がありました。

午前中は、前回の会合で寶來先生から出された宿題「生き生きとした子どもの姿があらわれた写真」を持ち寄ってグループで意見交換をしました。接続推進委員の他に年長と小学校1年生の担任、中学校の主幹、教務主任が参加しました。午後は、接続研究推進委員と中学校の主幹・教務主任で、小学校1年生の年間指導計画を見直し、園と小学校の共通点を見つけていしながら、架け橋期のカリキュラムの作成方法を考えました。



写真を見ての語り合い

午前中の「生き生きとした子どもの姿があらわれた写真」を用いたグループでの意見交換は、小学校区ごと4グループ[函南小、丹那・桑村小、東小、西小]に分かれて行いました。参加者一人一人が用意した写真を基に、保育者・小中の先生方のかかわり、言葉掛け、そこに向かうまでの手立てなどについて話し合うことで、「園と学校の共通点」を見いだすことができました。持ち寄った写真は、どれも子どもの生き生きとした姿を捉えた写真ばかりで、会話もはずみました。また、子どもの「やりたい」の声を拾い、それを実践するために、子どもが活動しやすい環境を保育者・小中の先生方が設定するという点で、園・学校共に共通している内容でした。

【函小学区】

函南小の図工「ねんどでごちそう」では、粘土の柔らかい感触を楽しんだり、自分が使いたい色をつくるために何色と何色を混ぜたらよいかを考えたりする活動は、園での経験が生かされていました。春光幼稚園の「アイドルごっこ」は子どもの発想を形にできるように環境設定をしていました。また、子どもたちの自由な発想で遊びを広げていました。マーガレット保育園の「透明ビニール袋を使った遊び」では、子どもたちに気付きを促す保育者の言葉掛けや、重さや色などたくさんの学びが子どもたちの中に生まれていました。



【桑村・丹那学区】

桑村小学校の「シャボン玉遊び」では、シャボン玉が地面に落ちて割れないことに気付いたことから、どうしたら割れないのかを自分たちで考えて、地面に大きなシャボン玉をつくったり並べたりしました。自由ヶ丘幼稚園では、「うかぶかな？しずむかな？」という本を読んだことから、牛乳パックを使った沈まない船づくりに子どもたちが挑戦しました。牛乳パックの中に水が入り沈んでしまったという失敗から、どうしたらよいかをみんなで考え、3人が乗れる船を完成させました。失敗してもあきらめずつくり上げることで、達成感を味わうことができた活動でした。



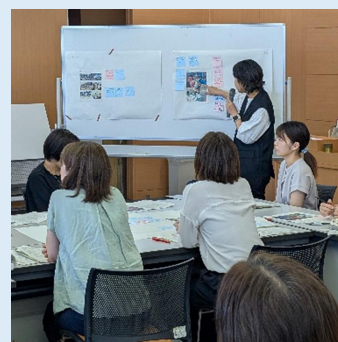
[東小学区]

自由ヶ丘幼稚園とさくら保育園では、園児のやりたいという声から乗り物づくりが始まりました。どうしたらみんなで乗れるのか、みんなで考え協力してつくり上げていました。自由ヶ丘幼稚園では牛乳パックでは水が入って沈むという失敗から、水が入らないようにするためにペットボトルを使うことを考えつきました。さくら保育園では牛乳パックを使って水が入らない工夫をし、乗り物を完成させました。どちらも保育者が子どもの声を拾い、実践に移すことができるような環境設定をしていました。



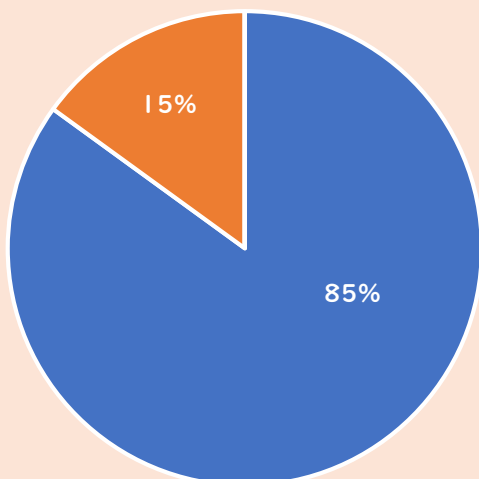
[西小学区]

みのり幼稚園の「色水遊び」では、色の違いを楽しんだり、ジュースに見立てたりと、子どもが自由な発想で楽しむことができる環境設定がされていました。また、色水を氷にすることは3年生の理科にもつながるという意見もありました。西小学校の図工「カラフル色みず」は、子どもが自由に表現できるような環境設定と、友達と伝え合う活動は、園の活動の延長のようだという声があがり、園と小学校のつながりを意識することができました。



[アンケートより]

1 午前中の研修は参考となりましたか。



- ア：とても参考になった
- イ：参考になった
- ウ：少し参考になった
- エ：どちらとも言えない

2 参加した先生方から

- 園と小学校の共通した部分をたくさん見つけることができた。
- グループ協議をすることで、架け橋期の子どもの様子やつながりを学ぶことができた。
- 寶來先生の講話やグループ協議から、小学校と同じ目線で子どもを捉えていくことが大切だと感じた。
- 園と小で実際に先生たちと話をする機会があまりないので、遊びや活動が小学校の授業につながっていることに気付いたり、具体的な話を聞けたりしたのはよかった。
- 目指す子どもの姿の写真を基に、共感できることが多くて良かった。幼保こ小の共通点が多く、もっと連携すればよりよい教育ができると思った。
- さまざまな校種の先生方の取組を目の当たりにできたことはうれしく思った。
- 幼稚園、保育園、小学校、中学校と自然なつながりがあることを実感することができました。
- 園の活動をもっと知りたいと思いました。各園が活動してきたことが、まとまっているものがあると、小学校の活動の幅が広がると思いました。
- 教科横断的な授業を行い、時数を多く確保した上で子どもたちの思いを授業で取り上げていきたいと思った。
- 主体的で対話的な活動をしていくことが小学校への連携へとつながることが分かったので、今後も活動の中に取り入れていきたい。

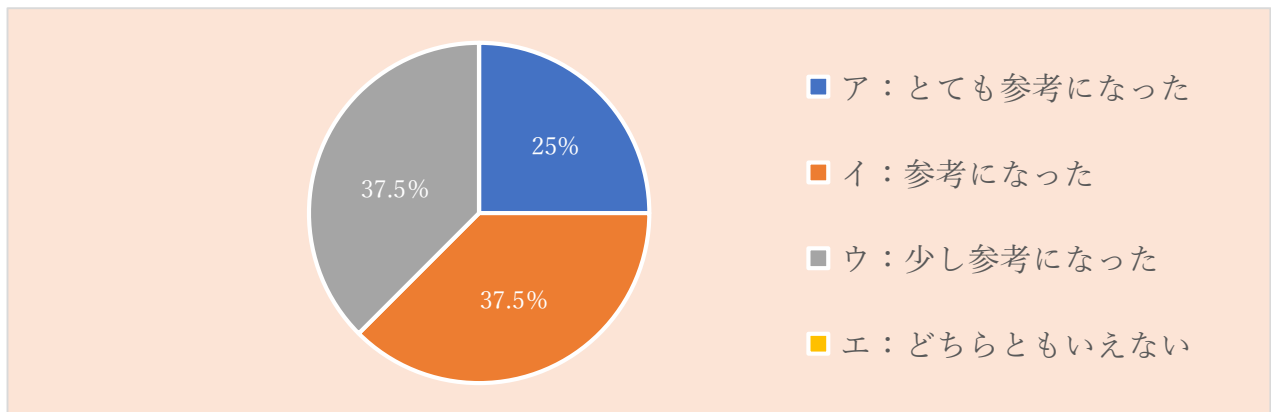
年間指導計画を見ての語り合い

午後は、寶來先生から、「園と学校が互いの取組を知り、子どもの学びの連続性を意識したカリキュラムにすることが大切である」という助言をいただいた後、架け橋期のカリキュラム作成のために、各小学校の年間指導計画から共通点を見つける作業に入りました。しかし、どのような視点で年間指導計画を見ればよいか悩み、なかなか作業が進まない様子を見た寶來先生から「生活科を中心に、共通点を見つけていくと良い。」という助言をいただき作業を進めていきました。園の先生からは、「小学校の年間指導計画をじっくりと見る機会があまりなかったので、改めて見ると園との共通点がたくさんあることに気付いた。」「小学校の学級活動の内容は園で取り組んでいる活動に近い。」という声が、中学校の先生からも「これは中学までつながる内容だ。」という声が聞かれました。また、「年長の担任や、1年生の担任がいたらもっと共通点が見つけられたかもしれない。(午後は、接続研究推進委員と中学校の主幹・教務主任で行われたため)」という声も聞かれました。

今回は小学校の年間指導計画を見てもらいましたが、次回は園の年間指導計画から共通点を見つける予定です。また、寶來先生からは、「カリキュラムには決まった形はない。正解はないので、函南町ならではの形を見つけていけば良い。」というお話がありました。今後、接続研究推進委員や園・学校の先生方からの意見をいただきながら、函南町としての架け橋期のカリキュラムを作成していく予定です。

[アンケートより]

1 午後の接続研修推進会議は参考になりましたか。



2 参加した先生の声

- 1年生や年長の担任がいると具体的な話し合いができたのではないかと思います。
- 初めは指導計画から共通点を見つけることが難しかったが、途中から方向性を少し変えたことでつながりがあることがわかり、話しやすかった。
- 自分とは違う立場の方々との意見交換は、新しい発見が数多くありました。
- 幼稚園と小学校の具体的な共通点を話し合う中で見つけていくことができた。以前1年生の担任をしていたとき、幼稚園での様子が分からず、知りたいと思ったことがあった。小学校はゼロからのスタートではなく、園での経験の上に成り立つことを考えると、このような会やこのような資料を積み重ねることで、もっとつながりがスムーズになったり、先生方の交流や意見交換が深まったりしてよいのではないかと感じた。
- 小学校の教育課程をじっくり見たのは初めてで、生活科がどんなことをしているのか知ることができてよかった。
- 生活科を教科横断的に学習したり、保幼でやってきた経験をつなげたりして、接続を意識して年間計画を立てたい。これは小中の接続でも同様でできると思う。